

特定非営利活動法人
エイブル・アート・ジャパン

A B L E
A R T
J A P A N

2025 年度 事業報告
[期間:2025 年4月1日～2026 年3月 31 日]

2026 年6月2日

■2025 年度 事業報告

[2025 年度を振り返って]

エイブルアート・ムーブメントの現在

「エイブル・アート・ムーブメント(可能性の芸術運動)」の 30 周年事業を、一般財団法人たんぽぽの家と共同で企画運営した(2025 年 11 月/京都市・京セラ美術館「光の広間」ほか)。また、任意団体時代から実施してきたアトリエ・ポレポレの 30 周年を記念し「誰もが自分らしくいられる〈オープンアトリエ〉へひらき、ともに生きる。」も開催した(2026 年 2 月/東京港区・SHIBAURAHOUSE)。

障害のあるなしにかかわらず、社会的に弱い立場にある人のニーズから社会を構想し、オルタナティブな生のあり方を提案する市民芸術運動としての「エイブル・アート・ムーブメント」。全国に広がる活動の中で培われてきた知恵や思想、経験、取り組みから見てきた未来への芽をシェアし、あらためて人間らしく豊かに生きることができるアートの力を再確認したいと考え実施した。これまで活動を担ってきた新旧スタッフ、会員、協働者たちと共に語り、過ごす時間を得られた年となった。

[2025 年度の行動指針]

▲印:結果コメント

1. NPO の理念と支援への協力を発信(基盤のリニューアル)(再掲)

エイブルアートの理念、そして活動の今を知っていただき、ファンをつくり、共感をバネに協働者や会員、寄付者を増やしていく挑戦を継続する。オンラインサロン、事業報告会のオンライン化、そのアーカイブと発信等。またウェブサイトのリニューアルに取り組み、SNS の更新と連動していく。

▲2024 年度にサイトマップ、ワイヤーフレームが完成し、2025 年に改修に着手、2026 年度中の完成を目指している。マンパワーが足りないため、法人の活動に関与してきたエンジニア、編集者への依頼を予算化した。

・SNS の活用の戦略は、プロジェクト単位で 2025 年に予算を確保し実践したため、それを組織の学びの種として、各種事業の広報戦略や運用に活かしていく。

2. オンラインによる未来志向の実践(再掲)

オンラインは、物理的な空間をこえて対話できることを実感できる利点もある。この時代に私たちが与えられたひとつのメディア(道具)として、オンラインともうまくつきあっていくような知恵を、とくに障害者・生活困窮者・高齢者等のNPOの現場とも共有する。学習支援環境の劇的な変化が先行する子ども支援、教育支援 NPO にたくさんのヒントがある。異業種の活動に学びながら実践を高める。

▲会員からの申し出があり、会員総会にはじめて手話通訳をつけることができた。

・オンライン会議、オンライン鑑賞会、オンライン交流会、オンラインシンポジウムなどの実施が増えた。必要時、手話通訳や文字情報の表記など情報保障にも対応している(継続)。

・各種事業で実施している研修を動画で保存し、新任者研修・中堅職員研修などで活用している(継続)。

3. 社会に生じる新たな‘障害’に向き合い、その課題解決を通じて事業(仕事)を生む(再掲)

コロナ禍、社会に生じる‘障害’に向き合い、その課題解決にむけて活動していたら、いつの間にか事業が生まれ、また支援の輪が広がった。NPO の財源バランスにとって重要な、自主事業～自ら仕事をおこし、持続していくための事業を、このターニングポイントにこそ開発していく。

▲令和 7 年度の国会予算承認の遅れから、国・県・政令指定都市からの委託事業の採択通知が年度を超え、経営的な見通しがたちにくかった。課題としている自主事業の開発や、企業などとの民間団体の協働事業などで、財源のバランスをもつことを痛感した。

4. 組織基盤の強化(再掲)

2019 年度の振り返りのなかで課題になった点「組織基盤強化」に着手。法人の運営を担う中堅職員の雇

用、法人の各種規程の整備と改訂、そして会員の仕組みについての見直し等。理事やスタッフ、第三者を含めてワーキングチームをつくり取り組む。

▲現在の労働法に即した働き方や諸規程の整備に着手。具体的には「36 協定の締結」「フレックス制の導入」「勤怠管理のシステム化」「給与規定・俸給表の変更」。社会保険労務士と連携して取り組んでいるが、マンパワーが足りないため、秋から役員にも相談し解決にむけて動き出している。

▲法人としての活動は広がり、多様な業務の依頼やニーズがあるが、求人にも苦戦した年だった。東京では、時短で仕事を求めるキャリア組や副業を希望する人の応募が多く、東北では常勤の枠に応募がなかった。日本の人口減少や人材難の社会課題も NPO に直結することが顕著だった。運営体制に課題が生じているため、役員にも相談し解決にむけて動き出す。

[スタッフ体制]

【法人本部/東京事務局】

鹿島 萌子(常勤/2024 年9月～)

文化施設スタッフとして、イベントやプロジェクトの企画・運営、情報保障支援策の検討・試験的運用などに従事。入職後は、ミュージアム・アクセス・センター事業を担当。

稲邊 夏実(常勤/2025 年4月～)

大学で現代美術を専攻し、主に映像作品などを制作。現在、ミュージアム・アクセス・センター事業、東京におけるオープンアトリエ事業、そのほか東京事務局に関する諸業務を担当。

内野 悦子(非常勤/2015 年9月～)

法人事務局の経理、労務を担当。

原衛 典子(非常勤/2019 年4月～2025 年 10 月)

家業の経理事務に従事。法人の広報活動およびミュージアム・アクセス・センター事業を担当。

【東北事務局】

高橋 梨佳(常勤/2022 年5月～)

元生涯学習施設のバリアフリー担当職員のなか、エイブルアートの各種事業にボランティアとして参加し、その後、入職。障害者芸術活動支援センター@宮城、南東北・北関東広域センター、オープンアトリエ事業、ミュージアム・アクセス・センター事業、広報活動を担当。2024 年6月から事務局長補佐兼務。

伊藤 いづみ(非常勤/2021 年6月～)

2018 年から家族とともにエイブルアートのアトリエ & スタジオに参加。おもにオープンアトリエ事業、ショップ事業、東北事務局の経理・総務を担当。

鎌田 貴恵子(常勤/2025 年6月～12 月)

障害者の生涯学習事業および広報活動を担当。

柴崎由美子(常勤/2012 年～)

事務局長兼代表理事。2012 年～2017 年度東京勤務、2018 年度から東北事務局勤務。一身上の都合により仙台市在住。

【エイブルアート・カンパニー東京事務局】

柊 伸江(常勤/2025 年4月～)

アパレル企業でのデザイナー、芸術大学の助手及び研究員を経て、障害者アートのデザインを専門とするデザイン会社を設立。障害者アートのデザインアレンジ、福祉事業所のモノづくり支援、展覧会の企画などを行う。その後、2025 年4月に入職。エイブルアート・カンパニー東京事務局スタッフとして従事。

松岡 智子(非常勤/2024 年 10 月～2026 年4月)

一般財団法人たんぽぽの家の雇用により週2日勤務。登録作家の作品使用に関する連絡業務や、ウェ

ブサイト更新、SNS 配信を主とした広報業務等を担当。

[スタッフ体制を振り返って]

- ・東京事務局4人(常勤2・非常勤2) * 非常勤1名退職(2025 年 10 月)
- ・東北事務局4人(常勤3・非常勤1) * 常勤1名退職(2025 年 12 月)
- ・事務局長補佐を1名配置(5 月から1 名減)。理事会、総会、人事に関する業務などを担った。
- ・常勤スタッフは、職歴や経験値をもとに、チーフ職として、事業の申請や企画提案、進行管理、予算管理等を総合的にマネジメントに従事した。
- ・必要時に在宅勤務やフレックス制を継続した。コミュニケーションツール(Google Workspace や slack 等)を活用し、各事業のタスク管理をオンライン上で行い、これを事務局長ほかスタッフが常時確認できるようにした。
- ・東京と東北の合同スタッフ会議をオンラインで月1回開催。上半期は組織全体の事業への理解、情報交換を実施し、後半は、活発化する事業にあわせて、具体的な連携を促した。

✕印:未着手、▲印:部分的に実行、
●印:新規での取り組み

■事業内容

[総務]

1. 会議等の業務

【第 15 回通常総会の開催】

日時: 2025 年6月 22 日(土)10:00-12:15

場所: 東京事務局、東北事務局、オンラインミーティングシステム Zoom 会議

2024 年度事業報告(案)・活動計算書決算(案)の承認

2025 年度事業計画(案)・活動計算書予算(案)の承認

【第 26 回理事会の開催】

日時: 2025 年5月 22 日(土)18:30~20:30

場所: 品川駅港南口協働スペース(品川駅前)およびオンラインミーティングシステム Zoom 会議室

2024 年度事業報告(案)・活動計算書決算(案)の承認

2025 年度事業計画(案)・活動計算書予算(案)の検討 ほか

▲理事会は春に1回しか開催できていない。

2. 会員に対する業務

・会員の入会、継続、休会に伴う業務

・2024 年度事業報告・活動計算書および 2025 年度事業計画(案)・活動計算書(案)の送付

・ニュースレターと事業案内を発送(年 3 回)およびウェブサイト、SNS による発信強化

●スタッフにより、理事会や総会資料、会員向けニュースレターの作成が分担可能に。

●会員へのニュースレター発行および会費案内業務には、ボランティアが参加。

3. 経理等の業務

・資金管理として、現預金等の日常の管理状況を明らかにする。顧問契約は、エバーグリーン税理士法人(東京)

・運営基盤の確立のために事業ごとの収支計画をたて、確実に遂行

・法人税や消費税、源泉徴収税等の税務関連の業務

●事業規模の拡大に合わせ、支払い業務等のヌケモレを防ぐよう仕組みを見直し継続。

▲中間報告義務がある事業は半期に進捗を確認できたが、ほかの事業(行政系)は下半期に集中するため、2-3 月の年度末に決算が集中し業務が過多になる傾向が続いている。

4. 労務管理等の業務

- ・2025 年度に職員給与の検討を行い、業務量に応じた俸給表の号数の判断をした
- ・法人に関連する業務を行うスタッフの労務面等において配慮
- ・各種規程・規則の変更を検討(継続):
- 2025 年 1 月の港区労働基準監督署からの指導に応じて、「36 協定の締結」「フレックス制の導入」「勤怠管理」の実施。
- ▲「給与規定」「俸給表」は社会保険労務士と連携して、修正・作成を継続中
- ・ハラスメントの禁止、教育訓練、職員の休日
- 教育訓練にかかる一人当たりの予算を具体的に示し、必要な経費として支出した。

5. 総務関連等の業務

- ・業務運営に必要な届出業務
- ・NPO法人としての東京都への 2024 年度事業報告・活動計算書の提出(総会後6月未完了)
- ・当法人に依頼がある後援名義の借用等の検討と対応

6. 広報・寄付キャンペーン等の業務

- ・ウェブサイト、Facebook、Instagram などでは、スタッフ自らが活動を言語化し、それを発信
- ・寄付キャンペーンの実施 **✕未着手**
- ・会員の仕組みの見直し、増員キャンペーンの実施 **✕未着手**
- ・データベースの活用:個人や団体に付属するカテゴリーの整理、スタッフが名刺交換した人たちのデータの一元管理、寄付の呼びかけやキャンペーン案内、セミナーや展覧会情報等の発信・申込み管理等を実施
- ▲助成金を通じて運用マニュアルを作成したが、一部の業務のほかは常時活用ができていない

【情報収集・発信(2025 年4月～2026 年3月)】 *メディア実績は別紙参照

事務局	媒体	投稿数	アクセス数
法人本部	ホームページ	48	19,335
	Facebook(フォロワー4,741 人)	52	51,324
	Instagram(フォロワー619 人)	18	—
東北事務局	ホームページ	79	44,845
	Facebook(フォロワー1,223 人)	122	60,867
	Instagram(フォロワー747 人)	72	97,290
	YouTube チャンネル(登録者数 93 人)	—	—
みんなでミュージアム	ホームページ	30	20,599
	Facebook(フォロワー229 人)	101	33,460
	X(フォロワー219 人)	233	—
	Instagram(フォロワー99 人) *5月～	78	—

[企
画
事
業]

1. A/A gallery 事業

【方針】

2023 年3月のアーツ千代田 3331 からの退去とともに、場は閉鎖したが、エイブルアート・カンパニー登録作家、MHD スカラシップ事業、相談支援業務からの発展等で、個別に対応している。

2. A/A shop 事業

【方針】ネットワーク化、人材育成に資するもの、収益が見込めるものに限って対応した。

【内容】

Fujisakiday(2025 年 10 月4日・5日@八木山動物公園フジサキの杜)

せんだいクラシックフェスティバル(2025 年 10 月3日～10 月5日@日立システムズホール仙台)

第8回障害と芸術文化の大見本市(2026 年1月 30 日～2月4日@せんだいメディアテーク)

3. エイブルアート・スタジオ事業

【方針】

A.運営委員会による独立採算事業を実施する。

B.セミナーやサロン等、人が集う場や企画を実施する。

【内容】

■東京会場

会場: 泉岳寺 庫裏(東京都港区/2023 年3月 26 日より)

活動名	ファシリテーター	活動日	登録メンバー数、参加費
アトリエ・ポレポレ	サイモン順子	毎月第2、4土曜日 13:30～17:00	登録メンバー: 25 人 年会費 5,000 円 1回 2,500 円 ビジター会員
エイブルアート芸術大学	中津川浩章	毎月第1土曜日 14:00～17:00	登録メンバー: 30 人 年会費 3,000 円 1回 2,500 円

特記:

・ポレポレの運営は渡辺一充さん、芸大の運営は宮原美香さんと、家族・ボランティアが中心。

・港区 NPO 活動助成金に申請し、アトリエ・ポレポレ 30 周年記念フォーラム「アトリエ・ポレポレ 30 周年祝 誰もが自分らしくいられる〈オープンアトリエ〉～ひらき、ともに生きる。」を開催。

会場: SHIBAURA HOUSE

日時: 2026 年 2 月 23 日(月・祝)

特記: 「アトリエ・ポレポレ」が 30 年にわたって育んできたつながりを共有しながら、「オープンアトリエ」という場が果たしてきた役割と価値を考えるフォーラムを開催。ポレポレにさまざまな形で関わってきた人々や参加メンバー、活動に関心を寄せる参加者が集まり、ポレポレの歩みをふりかえるトークを中心に行った。去年の展覧会に引き続き、明治学院大学の学生ボランティアと、その他都内近郊で活動するボランティアに協力いただいた。

■東北会場

会場: 上杉コミュニティ・センター(仙台市青葉区/2024 年7月より)

特記: 2018～2021 年度までは東京 2020 オリンピックパラリンピック競技大会に伴う仙台市文化プログラムとして実施。2022 年度から公益財団法人仙台市市民文化事業団の助成事業に申請し採択。継続して実施することができている。

「アトリエつくるて」

活動の種類	活動内容	ファシリテーター	活動日程	参加者数、参加費
創造	定期的なオープンアトリエの実施	佐竹真紀子 おりがみくん 門真妙 菊池聡太郎	年6回	57 人、1,500 円
	「こどものアトリエつくるて」 主に初めてアトリエに参加する小学生～中学生を対象としたオープンアトリエを実施	佐竹真紀子 おりがみくん	2025 年9月 27 日	11 人、1,500 円
	「おとなのアトリエつくるて」 主に初めてアトリエに参加する 18 歳以上を対象としたオープンアトリエを実施	佐竹真紀子 菊池聡太郎	2025 年 11 月 15 日	7 人、1,500 円
意見交換会	こどもの表現や創作活動に携わる関係者を集めて意見交換会を実施。	【話題提供】VanPhan (Tohe)、高橋雅子(ワンダーアートスタジオ)、佐竹真紀子(アトリエつくるて)	2026 年1月 16 日 場所: ワンダーアートスタジオ	来場者8人 参加費無料

「みんなでつくるよ広場の人形劇！」

活動の種類	活動内容	ファシリテーター	活動日程	参加者数、参加費
アウトリーチ	出張ワークショップ 実施先: ①自立訓練(生活訓練)事業所きおっちょら、就労継続支援 B 型事業所はるのひ文庫 ②就労移行支援事業所スイッチ・センダイ	工藤夏海(美術家) コーディネーター: 正木千尋(元デフパペットシアターひとみ所属)	年2件	①10 人 ②8 人

4. エイブルアート・カンパニー事業

【方針】「障害のある人のアートを社会に発信し、仕事につなげる事業」の窓口として活動を展開する。

【内容】

A. 基盤整備

登録作家 1 名の逝去と、他 1 名の作家からの AAC における活動休止の申し出があり、登録アーティストは 120 人、登録作品 12,737 点となった。

2年に一度実施する新規アーティスト公募(第15期)を行い、全国から90名の応募があった。
2026年2月13日に第15期カンパニーアーティスト選考会を行い、取引企業など13名の選考員
にご参加いただいた。事務局での調整を経て6名が最終内定者となり、現在、デビューに向けて
最終調整を行っている。
3法人4事務局間のコミュニケーションツールの活用や情報共有、業務のタスク管理の継続。

B. 著作権マネジメント

特徴的だった取り組みとしては、2025年10月、プロバスケットボールチーム・アルバルク東京の
ホームアリーナとしてオープンした TOYOTA ARENA TOKYO(トヨタアリーナ東京)の屋外サインア
ートとして、エイブルアート・カンパニー登録アーティストの描きおろし作品が採用された。8名のア
ーティストが、スポーツや未来をテーマにそれぞれ作品を描きおろした。また、東京都が推進する
文化事業「TOKYO CITY CANVAS」の一環として、エイブルアート・カンパニー登録アーティストの
太田宏介さんの作品を渋谷駅前の工事現場の仮囲いのデザインとして発表する東急株式会社の
企画が採択され、渋谷の街並みに彩りを与えた。

【事例】

□トヨタ自動車株式会社

・TOYOTA ARENA TOKYO 屋外サインアートにカンパニーアーティストの描き下ろし作品(8名、8
作品)が採用。

・愛知県内3工場の通勤バスのラッピングにカンパニーアーティストの描き下ろし作品が採用。

□東急株式会社・株式会社東急エージェンシー

・渋谷駅街区西棟仮囲いアートプロジェクト

第一弾:太田宏介氏の既存作品の中から、動植物をモチーフとした15点を厳選し、仮囲い全体に
配置。2025年8月18日公開。

第二弾:太田宏介氏が実際に渋谷を訪れて得たインスピレーションをもとに、「秋田犬」や「モヤイ
像」など渋谷の象徴的なモチーフを描き下ろした作品を加えて、2026年2月20日に公開。

C. アーティスト個人にフォーカスを当てた取り組みの企画・実施

・作家との密な連携を図りながら協働を行い、多様な描きおろしへの対応を継続した。
・作品の二次利用だけでなく、より作家本人の創作や人間性に視点を向け、直接的なサポートに
つながる事業を実施。アーティストとしての成長を促すとともに、作家個人の周知や社会への進出
に向けたマネジメントを行った。

【事例】

□MHD Artists Scholarship Program(MHD アーティスト・スカラーシップ・プログラム)

法人会員であるMHD(モエヘネシーディアジオ)Public Affairs&CSRとの取り組み。エイブルア
ート・カンパニーの登録作家に加え、社員交流したアーティストから、スカラーシップ対象者を募集。

2024年度スカラーシップとして支援が決定した4件(6アーティスト)の報告展示会を2025年7月に
実施。作品展示だけでなく、鑑賞ツアーやタフティングワークショップ、商品の販売を行った。

□大妻女子大学・実践女子大学との産学連携授業

授業テーマ「障害のあるアーティストとともに考える私たちの社会」のもと、学生とともに多様性や
共生社会について学ぶ機会を持った。エイブルアート・カンパニーの概要や社会背景について講
義を行うと共に、カンパニーアーティストに講師として参加してもらい、障害のあるアーティストのリ
アルな声を通して、より具体的な社会課題について考える機会を提供した。

D. メイク講座

障害のある人のメイクや身だしなみを支援する、株式会社ハーバー研究所(美容部、経営企画部
宣伝・PR課)との共同開発事業。2024年度は4年ぶりに対面講座を開催した。受付、ヒアリング、
当日の運営サポート、アンケート回収等の業務を行った。

□基本コース:2025年7月19日(土)、9月20日(日)14:00-16:00

□チャレンジコース:12月20日(土)14:00-16:00

会場:ハーバー研究所本社1階(東京都千代田区神田)

参加者合計:25人、視覚障害、聴覚障害、知的障害、発達障害、精神障害の人が参加した

□東京都内の精神科病院への出張講座の調整を行った。

5. 鑑賞支援事業

A. 美術と手話プロジェクト

【主な活動内容】

- ・プロジェクトメンバー定例会議(月1回)
- ・手話通訳の提供、美術館、企業、行政、教育機関等との連携事業
- ・外部から寄せられた手話通訳や文字通訳付きのプログラムについて「情報ひろば」への掲載
- ・自主事業の企画・検討

【事例】

・港区文化芸術ネットワーク会議

パネルトーク「文化・芸術×共生社会—だれもが文化・芸術にアクセスしやすい環境づくり」登壇

*事業パートナー:西岡克浩(プロジェクト代表/会社員、AAJ 会員)、市川節子(手話通訳士)、太田好泰(NPO 法人代表、AAJ 会員)、小谷野依久(会社員、東京都中途失聴・難聴者協会理事)、田中真理子(手話通訳士/大学学生支援)、和田みさ(手話通訳士)、柴崎由美子(AAJ 理事)、高橋梨佳(AAJ スタッフ)、稲邊夏実(AAJ スタッフ)

(詳細)<http://art-sign.ableart.org/>

B. リラックス・パフォーマンス「さあ行こう! マリンピアと音楽の旅へ」運営サポート

障害児者等を対象としたクラシックコンサートを開催するのにあわせ、広報・アクセス・鑑賞等の支援を行った。(宮城県障害者芸術活動支援センター業務)

・日時:2025年8月24日(日)2回公演

C. 国立アトリサーチセンター「ミュージアム運営のためのアクセシビリティ研修」事業への協力

独立行政法人国立美術館国立アトリサーチセンターが展開する「ミュージアム運営のためのアクセシビリティ研修」に協力し、障害のあるゲスト講師の提案紹介・コーディネート・当日対応を実施。なお、障害のあるゲストのコーディネートに関しては、アクセシビリティ研修が実施される地域の障害者文化芸術活動支援センター等と連携し調整した。

・日時・会場:1月21日(水)富山県立美術館/車椅子ユーザー、1月29日(木)川崎市市民ミュージアム他複数館/視覚障害、2月3日(火)国立西洋美術館/視覚障害、聴覚障害、車椅子ユーザー、発達障害のある人の支援者

6. 企画制作事業

A. [全国]ミュージアム・アクセス・センター事業(文化庁委託事業)

5年目の活動となる2025年度は、ミュージアム・アクセス・センターの実践を引き続き展開していくとともに、センターモデル普及の全国展開をみすえ、これまでの実践から得られた知見や実践モデルを持続可能な仕組みとして提案・提言する冊子にまとめて発行した。

(詳細)<https://minmi.ableart.org/>

【ワーキンググループ】 みんなでミュージアムメンバー(外部)3人 事務局5人

【事業概要】

□ミュージアム体験を豊かにする障害のある人やその支援者との、ミュージアムの環境づくり/鑑賞サポートの実践および研修(北海道・宮城・東京・神奈川・埼玉・静岡・奈良)

外出が難しい人、精神障害、聴覚障害、車椅子ユーザー、視覚障害/六本木アートナイト 2025

聴覚障害／埼玉県立近代美術館
聴覚障害、視覚障害／埼玉県博物館連絡協議会南部地域連絡協議会
聴覚障害、発達障害、精神障害／エスパス ルイヴィトン東京
聴覚障害、精神障害／アートユニット「mina-te-mari(ミナテマリ)」
視覚障害／静岡県立美術館
視覚障害、聴覚障害／日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS、北海道立函館美術館
一般財団法人たんぽぽの家
NPO 法人 UBUNTU／地底の森ミュージアム
発達障害、精神障害／株式会社ハーバー研究所

□オンラインプログラム「みんなの“わ”」:年3回

概要:障害のある人やその支援者、ミュージアム関係者やミュージアムが好きな人など、さまざまな立場と地域の人が集まり、ミュージアムとアクセシビリティについて学び合うオンラインプログラムを実施。

開催形式:オンライン配信(Zoom)、情報保障付き(手話通訳・文字通訳)

【みんなの“わ”第13回】家族や仲間と行ってみた!地域コミュニティのミュージアム体験～障害のある人と楽しむ工夫から

・実施日時:9月15日(月・祝)14:00～16:00

・申込者:28人

【みんなの“わ”第14回】感覚にやさしい「センサリーフレンドリー」な空間づくり

・実施日時:12月17日(水)19:00～21:00

・申込者:58人

【みんなの“わ”第15回】“6つの視点”から考える、みんなでつくるミュージアムアクセスーハンドブック『みんなでミュージアム』をご紹介

・実施日:2月27日(金)18:00～20:00

・申込者:39人

□交流会:1回

登録者同士の情報交換を促し、各地域での自主的な活動や体制の構築につなげることを目的に、交流の機会として交流会を開催。

・実施日時:10月13日(月・祝)10:00～11:40

・会場:港区立生涯学習センター(愛称:ばるーん) 学習室 304

・参加者:6人

□みんなでミュージアムメンバーによる事業化定例会議:12回

□相談支援 相談件数:37件、相談回数:111回

□相談支援 オンライン相談会:12回

□広報活動の強化(専門家を交えた広報戦略会議):5回

□モデル普及に向けた手引書発行/編集会議・デザイン会議:15回

□提言活動:5回

□みんなでミュージアムシンポジウム:1回

概要:「中間支援の役割とこれからのあり方」をテーマに、分野横断のネットワークの形成や、地域とミュージアムをつなぐ、あるいは伴走することとはどういうことなのかを、ゲストからの話題提供およびクロストークを通じて、「中間支援」の本質と解きほぐすシンポジウムを実施。

・実施日:2月15日(日)14:00～17:00

・申込者:91人

□国立アートリサーチセンター「DEAI リサーチラボ 2025」事業協力：通年

概要：国立アートリサーチセンターが展開する、社会包摂に資する文化芸術活動の拡充を促進する研修の教材の開発において、研修ツール・プログラムの開発を目指す研究会へ協力団体として参加し、知見の提供および意見交換、国立アートリサーチセンターが実施するアクセシビリティ研修への視察を実施。

B. [東北]障害者の生涯学習をテーマにした実践研究

①令和7年度「地域コンソーシアムによる障害者の生涯学習支援体制の構築」

仙台市・生涯学習を通じた共生社会推進事業

令和6年度は、文部科学省の事業を仙台市（教育委員会）が受託し、弊団体が事業の一部の再委託をうけて、以下の事業に取り組んだ。

□コンソーシアム年4回（7・9・11・2月）、委員 23 人、オブザーバー6人、事務局8人
市関係課（障害福祉・特別支援教育・生涯学習）や市民利用施設を管理運営している市外郭団体、ミュージアム関係団体、福祉関係団体、NPO・民間企業、PTA 等によるコンソーシアムを形成し、ネットワーク構築、事業目的・計画等の共有、事例紹介・意見交換による情報共有等を行った。

□プログラム「スウプノアカデミア」7回（検討会2回、実践5回）、成果報告会1回

活動の種類	日時、会場	活動内容	参加者数・属性ほか
まなびを考える会	①6月14日(土) ②6月29日(土)14:00-16:00 せんだいメディアテーク	学習者となる障害のある人自身によるテーマの設定と意見交換	
スウプノアカデミア	①7月26日(土)14:00-16:00 せんだいメディアテーク ②プレツアー:8月2日(土)本番:8月31日10:00-12:00 仙台市民図書館 ③9月20日(土)14:00-16:00 上杉コミュニティ・センター 11月8日(土) 14:00-16:00 せんだいメディアテーク	①「愛とか恋とか推してなんだ?ゆるっとはなそう」 ②「しりたい・まなびたいにこたえる図書館ツアー」 ③「みんなでつくるミュージカル」 「あそびとまなびの森スウプノアカデミア～みんなでつくるミュージカル」	(まなびを考える会含め) 延べ参加者数:215人 (うち当事者64人、付添7人、ボランティア17人、その他参加者45人、見学者9人、講師9人、手話通訳者10人、運営スタッフ51人) ・当事者の障害種別:身体障害(肢体不自由、聴覚障害、視覚障害)、知的障害、発達障害、精神障害(高次脳機能障害含) ・当事者の属性:福祉施設利用者、企業就労者、学生等 ・ボランティア・見学者の属性:高校生、大学生、大学院生、福祉事業所職員、

	④10月19日(日)14:00-16:00 せんだいメディアテーク ⑤11月24日(月・祝)13:00-15:00 北仙台周辺	④「ストレス・疲れを軽くしよう!わたしたちのコーピング」 ⑤「新発見・再発見!北仙台を気ままに散歩」	学校教員、社会教育主事、行政職員、会社員、当事者の家族等
--	--	---	------------------------------

□共に学び、共に生きる「共生社会コンファレンス in 仙台」の実施

2026年1月31日(土)10:30-16:00、会場:せんだいメディアテーク1階オープンスクエア

・参加者合計:144人/定員80人

・参加者属性:行政関係者(教育委員会・首長部局)17、学校関係者3、大学3、公民館等社会教育施設関係者19、社会福祉法人・NPO14、企業関係者5、保護者団体関係者1、障害当事者19、家族や付添15、一般参加者20、他

・参加者居住地域:仙台市、宮城県、東京都、福島県、山形県、岩手県、静岡県、秋田県、大分県(順不同)

・概要:第1部:①事例報告「わたしからはじまるみんなの学び スウプノアカデミア」、②事例報告「カラフル★クラブ」、③事例報告「特別支援学校卒業後における生活介護利用モデルの作成事業」、第2部:①おはなし「あたらしい世界への扉 図書館ってどんなところ?」(事例紹介)、②ディ

スカッション、③感想とおもいの共有時間、を構成した。「第8回障害芸術文化の大見本市」にあわせて開催し、オープンな空間のなかでの実施とした。

□その他

- ・参加者主体で開催した③のミュージカルのプログラムが、せんだいメディアテーク主催の展覧会内で関連プログラムとして開催するに至った。
- ・これまで開催してきた共生社会コンファレンスにおいて、はじめて「アート」がテーマに取り上げられ、市内の他団体が発表を行った。
- ・仙台市民図書館と協働してプログラムを行い、図書館で定番化するプログラムの一助になった。
- ・広報活動として、仙台市と協働し①ウェブサイトでの周知、②チラシ配布、③メールでの周知、④グループウェアでの周知、⑤仙台市政だよりでの広報、などを行った。
- ・ボランティアの募集として①NPO 中間支援、②社会福祉協議会、③大学ボランティアセンターを活用した。
- ・情報保障等につとめ、とくに手話通訳や要約筆記も活用した。
- ・本事業で定められた次のテーマにおいても、可能な限りの協力を行った（＊印）。
障害者の学びに関するニーズや実態、地域の学びの環境に関する調査研究の実施
特別支援学校等における児童生徒の生涯学習の意欲向上に資する取組の実施＊
障害者の学びを支援する人材の育成に資する研修の実施＊
障害者の学びに関する情報を一元的に収集・提供する仕組みの構築＊
読書や図書館等の利用や意思疎通に困難を伴う障害者の支援に関する取組の実施
・報告書を作成し公開した。

https://soup.ableart.org/program/2025nen/r7_sendai_syougaiyakusyu/

②宮城県教育委員会「学びを通じたみやぎの共生社会推進事業」(文部科学省「学校卒業後における障害者の学びの支援推進事業」受託)の協力

年4回のコンソーシアムと準備会に委員として参加。本件で予算が捻出できなかった市町村で、芸術文化活動のニーズがあった地域においては、③の枠を通じて実践した。宮城県教育委員会、圏域の教育事務所、市町の生涯学習課との連携の仕組みができてきた。
県が主催する社会教育主事研修に講師として参加し、障害のある人の生涯学習活動の事例を紹介し、その意義や意味を伝えた。

③芸術銀河 2025 出前講座 企画・運営

主催：みやぎ県民文化創造の祭典実行委員会(芸術銀河)

共催：特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパン

協力：NPO 法人奏海の杜、一般社団法人 LINK、宮城県教育委員会

□令和7年度障害者アート作品を通じた相互理解促進業務

「わたしの中のバリアを外すのは、わたしだ」ミニ巡回展

・日時：2025 年 12 月 10 日(水)9:45-16:00

・会場：松島町文化観光交流館

(令和7年度「共に学び、生きる共生社会コンファレンス in みやぎ」会場内)

・概要：宮城県内に住む人で、社会生活に何らかのハンディがある人が制作した作品(公募展)の入選作品から一部を巡回。制作者、鑑賞者双方が社会の中にあるさまざまなバリアに気づき、それぞれの心の中のバリアを外すきっかけとするための展示機会を作った。

・出展者 13 個人 1 団体、25 作品

・出展者で来場した方・関係者 2 個人 3 団体

・来場者数(コンファレンス来場者数) 142 人

□登米市青年文化祭「音奏おとかなみワークショップ」(障害のある人との生涯学習活動)

・日時：2026 年2月8日(日)9:30-15:00

・会場：登米市南方農村環境改善センター

・概要：令和5年度から登米公民館やNPO 法人奏海の杜が中心になり、活動が行われてきた。令和6年度は、これに登米市生涯学習課や東部教育事務所が加わり、「芸術銀河」を通じ

て、芸術文化を通じた生涯学習事業や相互交流に取り組んでいる。
令和 7 年度においても青年文化祭の場を活用して、障害の有無に関わらず多様な人たちが交流するプログラムを実施した。登米市の美術家や障害のある人の作品を展示しながらワークショップを行った。

・来場者数：青年文化祭全体で 314 人

C. [東北]宮城県・障害者芸術活動支援センター運営(受託事業)

①相談支援

宮城県内 58 件、宮城県外 43 件、全国 26 件、海外 3 件、不明 1 件：合計 131 個人/団体

相談件数 131 件(前年度 165 件/前年度比 79%)

相談回数 590 回(前年度 789 件/前年度比 75%)

②芸術文化活動を支援する人材の育成等

SOUP の研修(全3回)

□第1回「映像による表現を知ろう！SNS で発信してみよう！」

・日時：2025 年 10 月 28 日(火)15:00-17:00

・会場：アート・インクルージョン/オンライン(zoom)

・参加人数：10 人(会場7人/オンライン3人)

□第2回「作品展をひらく、はじめの一步！～いろいろな展示方法を知る・作者について伝える文章を考える」

・日時：2025 年 12 月 19 日(金)15:00-17:30

・会場：even supported by チョウエイハンズ

・参加人数：6人

□第3回「どう見たらいいんだろう？作品や表現の見方を広げよう！」

・日時：2026 年2月 24 日(火)15:00-17:00

・会場：みやぎハートフルセンター/オンライン(zoom)

・参加人数：19 人(会場8人、オンライン 11 人)

③関係者のネットワークづくり

令和7年度宮城県障害者芸術文化活動支援業務協力委員会の実施

・日時：2025 年 10 月9日(木) 13:30-15:30

・会場：自治会館 207 会議室

・参加者数：15 人、宮城県障害福祉課職員2人、支援センター職員2人

④芸術文化活動(鑑賞・創造・発表等)に参加する機会の確保

第8回障害のある人と芸術文化活動に関する大見本市「きいて、みて、して、見本市。」

・日時：2026 年1月 30 日(金)-2月4日(水) 10:00-18:00

・会場：せんだいメディアテーク1階 オープンスクエア

・内容：①共に学び、生きる共生社会コンファレンス in 仙台 ②手ではなすおはなしの会

③障害と芸術文化のブース・セッション!! ④図書館はじめてツアー ⑤障害と芸術文化のブース

⑥ニューカマーセブン ⑦ひだまりのギフト展 ⑧いろんな「読む」のカタチ展

・来場者数：4,093 人(6日間)

⑤情報収集・発信

紙媒体	障害と芸術文化の大見本市チラシ
・学校(仙台市管轄)	仙台市特別支援学校・特別支援学級：生徒数 2,476 人

・学校(宮城県管轄)	宮城県特別支援学級:児童・生徒数 3,223 人、宮城県特別支援学校(幼稚部、小・中・高校)・私立含:生徒数 2,770 人
・福祉、文化、教育関係機関(宮城県)	仙台市内福祉施設 369 件、宮城県内福祉施設 198 件(それぞれ行政より最新データ入手後絞り込み)
・行政、美術館、図書館等文化施設(仙台市)	仙台市市民センター、区役所 障害高齢課、仙台市市民文化事業団関連文化施設への設置

D. [東北]そのほか

①宮城県在住の障害のある人の発表・参加・鑑賞・二次利用等の支援に係る取組

- ・発表や参加の機会(展示、公演、ワークショップ)のサポート 7件
- ・鑑賞の機会のサポート 3件
- ・二次利用のサポート 4件

【特記】宮城県「令和7年度障害者アート作品を通じた相互理解促進業務」

- ・内容:障害者差別解消法や共生社会の県民理解を進めるため、障害のある人のアートの作品展の開催、商品化や広告媒体等の二次利用を進める事業において、支援センターとして作品展の公募の広報協力、障害のある作家や福祉事業所の契約のサポートなどを行った。
- ・作品展『わたしの中のバリアを外すのは、わたしだ。』

会期:2025 年 10 月 17 日～11 月3日

会場:仙台パルコ本館6階 PARCO SPACE6)

E. [南東北・北関東]障害者芸術活動支援センターの南東北・北関東広域支援センター運営

南東北・北関東ブロックは、6県すべてに支援センターが設置されている。各県の支援センターの設置年は、宮城県(2014[平成 26]年～)・栃木県(2017[平成 29]年～)・福島県(2019[平成 31]年～)・山形県(2020[令和2]年～)・群馬県(2023[令和5]年～)・茨城県(2023[令和5]年～)である。広域センターは、2021[令和3]年度に設置、当法人が運営し5年目を迎えている。

ブロック全体を通じて、支援センターの職歴は1年から8年とキャリアの差異があり、自治体職員も数年ごとに入れ替わり、事業費予算も大きく開きがある。しかし、共通して「11の施策」の理解に努め、自県の課題に対する問題意識を明確に持ち、その課題を毎年着実に改善していこうとする意欲と柔軟な計画・活動があり、共にブロック研修や交流・連携を通じて切磋琢磨している。

□実施事業

①ブロック連絡会議5回:のべ参加者数 74 人

スピンオフ企画「なんでも相談会」3回:のべ参加者数 21 人

- ・「支援センターの複数法人による共同運営の仕組みについて」
- ・「自治体における基本計画策定の推進に関する具体的な工程」ほか

②ブロック研修

「自治体と支援センターによる協働型評価」2回:のべ参加者数 34 人

「文化施設におけるアクセシビリティ」研修(山形県支援センター共催):参加者数 26 人

「障害のある人と著作権」研修～基本編(栃木県支援センター共催):参加者数 38 人

「障害のある人と著作権」研修～応用編(群馬県支援センター共催):参加者数 30 人

③出稽古はブロック内の6県を往来するかたちで実施され、生の現場で支援センターの仕事を見聞した。これらの活動はブロック会議で報告され、これをウェブサイトに掲載することにより、自身の活動の痕跡や学びを記録し、実践を社会に発信した。

・出稽古①/栃木県 → 福島県

福島県須賀川市「きになるまちなか美術館」および「福祉とアートのオープンミーティング 2026」

・出稽古②/福島県 → 栃木県

TAM 会議および栃木県の公募展「Viewing(ビューイング)展」の設営・研修会

・出稽古③/茨城県 → 宮城・山形

宮城県: 支援センターを運営する NPO の独自事業オープンアトリエ「アトリエつくるて」

山形県: 相談支援の実際と、コミュニティダンスワークショップ体験

・出稽古④/山形県 → 宮城県

「障害と芸術文化のブースセッション」およびオープンアトリエ「アトリエつくるて」

・出稽古⑤/宮城県 → 群馬県

「障害のある人の表現と著作権～つくる人と使いたい人のための基本知識(応用編)」

・出稽古⑥/群馬県 → 茨城県

茨城県「企業連携研修会」および「ちいきの学校」および「北水会すいこうスクエア」

□全国連携事務局および広域ブロック支援センター(7ブロック)との連絡会議(全3回オンライン・対面/長崎県)

□事業パートナー(敬称略): 武田和恵(社福・愛泉会ギャラリーら・ら・ら/やまがたアートサポートセンターら・ら・ら/山形/AAJ 会員)、小林竜也(社福・安積愛育園/はじまりの美術館/福島)、梶原紀子・五味渕仁美(認定 NPO 法人もうひとつの美術館/とちぎアートサポートセンターTAM/栃木/AAJ 会員)、茨城県障害福祉課(茨城)、小堀幸子(NPO 法人ちいきの学校/茨城)、津田優希(ROKUROKURIN 合同会社/茨城)、吉田征雄(NPO 法人あめんぼ/群馬)、松原東洋(NPO 法人工房あかね)

F. 【国際交流】

【イギリス】

イギリスのシェイプ・アーツからの仲介による、美術家・ジェイソン・ウィッシャー・ミルズさんと日本の作家との交流を継続(3年目)。エイブルアート・カンパニー登録作家とエイブル・アート・ジャパンの活動に参加する作家で、福祉施設などに属さない人を主な対象者として、メンタリングセッションを継続した。引き続き、イギリスでの日本作家・作品の展示計画に向けて活動を継続している。

【韓国】

□「東アジア生涯学習研究フォーラム in ソウル」への参加

2025 年 11 月 26～28 日に東アジア各国の生涯学習政策や研究事例の報告とディスカッションが行われ、「現代日本の生涯学習政策の実際」の発表の中で、仙台市とともに取り組んでいる生涯学習の実践について事例報告した。

【ベトナム】

2026 年 1 月、交換留職プログラムのパートナーである Tôhe(トーヘ)クリエイティブディレクター Van Phan さんの研修の受け入れをおこなった。たんぼぼの家およびエイブル・アート・ジャパン(東京・東北)にて、障害のある人を対象としたプログラム、展覧会、福祉施設等の視察と各事業のレクチャーを行い、交流を図った。

7. 調査研究事業

・2025 年度の調査研修事業は、企画事業化(受託)した。

8. 出版事業

・既存の書籍を販売した。

・[東北]での「みんなでつくるよ広場の人形劇！」の活動をまとめた冊子『みんなでつくるよ広場の人形劇！2018→2023 人形劇ワークショップの記録とそのつくりかた』(2024 年 3 月発行)

・播磨靖夫著『人と人のあいだに生きる—最終講義 エイブル・アート・ムーブメント』(2025 年 1 月 31 日発行、出版社: どんく社)

9. 助成事業

フェリシモによる寄付「小さなアトリエ基金」を継続。

2024 年度の基金拠出先である「特定非営利活動法人 エイブル・アート・ジャパン」のレポートを公開。2025

年度の基金拠出先は、「アーピカル☆」、「となりに、いるよ」の二団体に決定し、報告書作成依頼中。

10. そのほか目的を達成するために必要な事業

A. 情報発信にかかわる組織基盤整備について

法人のウェブサイト(<https://www.ableart.org/>)の改修に取り組みはじめた。2024 年度にウェブディレクター・萩原俊矢さんに伴走してもらいながら議論した改修の方向性を元に進行。制作は、萩原さんが代表をつとめる株式会社スタジオ・オータムに依頼。

B. ボランティア・インターンの受け入れ、事務局サポーターの設定

ボランティア・インターンを積極的に受け入れ、事業の参画者をふやしていくよう試みた。

・東京事務局では、事務所から近い明治学院大学ボランティアセンターに依頼し、アトリエ事業およびみんなでミュージアムの活動で連携した。

・東北事務局では、アトリエ事業およびスウプノアカデミアで、NPO 中間支援組織、社会福祉協議会、複数の大学のボランティアセンターと連携した。

C. エイブル・アート・ムーブメントの協働団体との連携

「エイブル・アート・ムーブメント 30 周年記念フォーラム」(主催：一般財団法人たんぽぽの家、共催：NPO 法人エイブル・アート・ジャパン) 2025 年 11 月 28 日(金)～30 日(日)、京都市京セラ美術館にて開催。年間を通じた会議への参加、当日運営、発表などに従事した。

D. 24 時間 TV48「障がい者アート支援」寄付プログラム

公益社団法人 24 時間テレビチャリティー委員会の依頼により「24 時間テレビ 48」(2025 年 8 月放送)における収益の一部を、全国の障害児・者の芸術文化活動や表現活動を推進する事業者へ寄贈品購入費(寄付金)として分配するためのプログラムを構築し、厚生労働省障害者芸術文化活動普及支援事業 令和 7 年度広域センターの協力を得て、寄付対象となる事業者を同委員会へ推薦した。その後、寄付対象として同委員会により承認された事業者が同委員会へ寄付金請求を行うまでの仲介を行なった。

主催：公益社団法人 24 時間テレビチャリティー委員会

運営事務局：NPO 法人エイブル・アート・ジャパン、一般財団法人たんぽぽの家

寄付対象事業者：100 事業者(全国47都道府県)

寄付金請求額：1,500 万円(1 事業者 15 万円)

E. 報告に関連する参考資料 (添付)

参照資料①相談支援について(東京・東北)

参照資料②メディア掲載、研修、講演、執筆活動等について(東京・東北、エイブルアート・カンパニー)

参照資料③活動詳細、数値報告(東北)

以上